

南三陸ホテル観洋 ー東日本大震災から5年ー

南三陸ホテル観洋

第一営業課長(企画係長兼務) 伊藤 俊

東日本大震災から5年が経過し、私たちはまた新たなステージに入ったことを現地にいても実感します。

2011年3月11日。宮城県南三陸町にある南三陸ホテル観洋も私たちホテルスタッフも未曾有の大災害と言われた今回の震災に遭う中で、災害への備えや防災・減災の意識を持つことの大切さ、命を守る事の大切さを痛感致しました。

高台で岩盤の上に建つ当ホテルは当日300名以上の命を守ることができた場所になりました。さらに宿泊産業は日常的に衣食住を提供する場ということも有り、否応なしに避難所の役割を担うことになりました。その中で人が生きるために何をすべきか、又どのように普通の日常を取り戻していくか、という課題に自然に毎日向き合う事になりましたので、私たちにとって1000年に1度の災害は1000年に1度しかない学びの場でもあるということも強く実感しております。水の確保、衛生面の確保、食事の確保、避難所でのルール作り、情報発信等、様々な困難も人の工夫と努力、さらに人と人の繋がりや支え合いによって乗り越えることができた、この経験は未来に遺し、伝え続けていく重要性も時間が経過すればするほど強く感じています。

2012年2月からスタートした「震災を風化させないための語り部バス」の取り組みもおかげ様で30万人以上の方にご利用いただき、皆さまの温かい思いと共にもっともっと伝えていく取り組みは継続しなければと思います。皆様が現地を自分の目で見て感じる事そのものが、生きているうえで一番大切なものに気付くキッカケになることを願います。



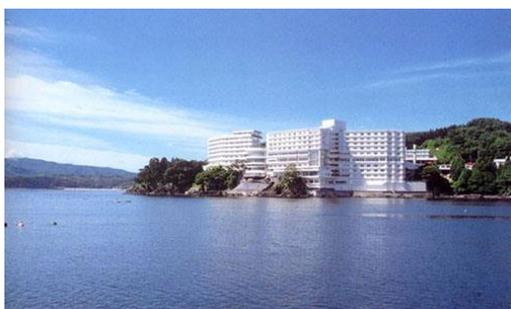
写真:語り部バス



写真:語り部バス(庁舎前)

今年3月に開催致しました「全国被災地語り部シンポジウム in 東北」の開催においては REIC 様はじめ沢山の皆様に多大なるご協力をいただき、参加定員を遥かに上回る330名以上の

参加者の皆さまと今後の連携や取り組みの継続を確認できる貴重な場となりました。
今後も様々な自然災害が必ず発生していく中で、私たちの取り組みはもっともっと広げていくな
がら、一人でも多くの方に「伝えていく」ことを発信し続けます。
ぜひ南三陸にいらっしゃってみてください。心よりお待ちしております。



太平洋沿岸に湧き出た南三陸温泉。
露天風呂からは、三陸の青い海と、緑の島々を望むことができます。

「南三陸ホテル観洋」

<http://www.mkanyo.jp/>

〒986-0766 宮城県本吉郡南三陸町黒崎 99-17

ご予約、お問合せ TEL : 0226-46-2442 (代)